

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

国 語

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>説明的文章における課題は要旨の理解や具体的な内容把握が正確に出来ていない点である。そのために、文章中の言葉を短絡的に結びつけてしまい、正確に読むことが出来ない。また、答え方に不十分さがあり、正しい形で答えられずに不正解となってしまう。記述問題のうち、抜き出しで答えずに答える問題などは、答えを書くことをあきらめてしまう生徒もいる。</p> <p>このことから、論理的な文章理解と、問いに対する答え方の指導が不十分であると考えられる。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示語の指し示す内容が直前にあることを意識させ、論理的な理解ができるように指導を行う。 ・ 中心的な部分と付加的な部分、事実と意見とを読み分ける指導を行う。 ・ 5W1Hを意識して表現させる。 ・ 問いに対する答え方を指導する。 ・ 自分の意見や考えを根拠をもとに記述する機会を増やす。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導を頻繁に行い、板書ができているか、確認する。 ・ 発言のチャンスを多く作り、話すことに慣れさせる。 ・ 要旨、主題等をノートにまとめる時間を作る。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元毎のワークシート、要点のまとめ、短文作り等で確認し、理解が不十分な生徒には個人指導を行う。 ・ 教科書巻末にある発展教材を中心に数多くの作品に触れさせる。 ・ 課題図書を紹介して、読書のきっかけを作る。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語指導においては、漢字小テストを実施し、基礎の定着と意欲の向上を図ると共に辞書の活用を勧め語彙の習得に努めさせる。 ・ 基礎的な漢字は小テストを実施し、8割合格に満たないものは放課後に練習させ、再テストを実施する。 ・ 夏休みには読解練習や文法の総復習、漢字の定着を図る補充教室を行う。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

社 会

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>学習に対しての関心・意欲・態度は高く、知識・理解についても身に付いているものが多い。また資料を活用し解答を導き出す能力も身に付いている。課題としては、思考・判断する力や表現力する力が十分とはいえない点である。自らの考えや知識をもとに、地図・資料等を分析し、的確に表現できる力をつける指導を充実させたい。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な教材(写真や実物など)を使って、関心・意欲を高める。 ・作業的な学習をする。 ・ワークシートを活用し、思考・判断や文章表現力を高める。 ・「知識の定着」を図るために、プリントを用いた反復練習を適宜行う。また授業毎、もしくは単元毎の小テストを実施する。 ・適切な課題による調べ学習、レポート作成等を取り入れるとともに、発表を行うなど表現力を高める。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を用意し、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・基礎的基本的な内容の定着を図るためにワークシートを活用する。 ・新聞記事やニュースを利用して社会事象への関心を高める。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成など、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・基礎的基本的な内容の定着を図るためにワークシートを活用する。 ・現在の社会問題に対して、自分の考えや意見を文章に表現させる。 ・適切な課題による調べ学習を行い、発表などを行う。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査1週間前には、放課後に質問教室を実施する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

数 学

<p>課題分析の 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎計算力が不足している生徒が多く、ケアレスミスも多い。 ・落ち着いて授業に取り組んでいるが、学習したことが定着しない生徒も多い。 ・宿題をやらないなど、家庭学習が定着していない生徒がいる。 ・文章題では、問題の意図することを読み取れない傾向がある。 ・生徒間での学力差が大きいといった問題点もある。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別小人数授業であることを生かし、コースに応じた問題演習を数多くこなし、計算力の向上を図る。 ・宿題を定期的に出し、学習の定着を図る。 ・定期的に小テストを行い、既習事項の確認と課題を考えさせる。 ・ただ解き方を暗記させるのではなく、なぜそうなるのか常に考えさせる。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>時間内 一単位</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コースごとに課題を用意し、問題演習を数多くこなす。 ・机間指導を頻繁に行い、問題が確実に解けているか、確認する。
	<p>や単元末 単元の途中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストをこまめに行い、定着を図る。 ・プリントや補助教材を活用し、単元のまとめを行い、理解を確かめるとともに応用力をつける。
	<p>（放課後・休業日） 学力補充教室等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに小テストを実施し、基礎の定着と意欲の向上を図る。 ・基礎的な計算は小テストを実施し、基準に満たないものは放課後や昼休みに再テスト、補充学習を実施する。 ・夏休みには基礎計算力が不足している生徒の向けての補充教室を行う。
	<p>効果についての検証の計画 少人数指導の実施計画、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数授業であることを生かし、コースに応じたプリント教材を作成し、問題を解く。 ・定期的に小テストを行い、既習事項の確認と課題を考えさせる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

理 科

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>1 学年では実験観察の基礎操作、スケッチ、グラフなどのレポート作成が十分に身につけていない生徒がいる。2、3 学年では、実験の目的、課題を明確にした上で実験に取り組むことや自らの考えを考察にまとめ、自然事象の理解を深めることが課題である。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<p>1 学年は TT を活用して丁寧に基礎操作の指導を行う。また、レポート作成について、課題ごとにまとめ方を指導する。2、3 学年は、実験の目的、課題の理解を深めるために、個別実験をおこなったり、視聴覚教材を活用したりする。また、引き続きレポート作成に対する指導を行う。</p>	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<p>実験が早く終わったグループに対して、別の実験方法を用意し、取りまさせる。実験結果を丁寧に検証し、考察することから、自然事象の科学的法則を発見させる。</p>
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<p>ワークシート等による問題演習の取り組み。ニュースなどに取り上げられる科学的課題をこれまでの学習内容と結びつけ考察する。</p>
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<p>放課後の時間に、実験の補講を行う。また、定期考査前には質問教室を実施する。</p>
	<p>T・Tの実施計画、 効果についての検証の計画</p>	<p>実験、観察において、遅れているグループに対する指導援助。レポート作成や問題演習における個別対応。</p>

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

音 楽

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲の基礎知識が不足している。 ・ 歌唱表現（合唱を含む）に関しては、学年により意欲の差が激しい。 ・ リコーダー、鑑賞能力の個人差が大きい。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 覚えなければならない音楽用語は、模造紙にまとめいつでも掲示できるようにしておく。 ・ ワークシートや自己評価表を活用し、個々に応じた指導を行う。 ・ 歌うことに抵抗をもっている学年には、楽しく歌える和やかな雰囲気を作る。 ・ パートリーダーを育成する。 ・ 昼休みや放課後に遅れている生徒の補習を行い、個別指導を充実させる。 ・ 小品の鑑賞を増やす。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の初めに本時のねらいを明確にし、生徒に課題をつかませ目標を持たせる。 ・ 机間巡視を行い多くの生徒と関わりをもち、各人の目標につながるように声かけをする。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートや自己評価表に個々に応じたコメントを入れる。 ・ 仲間同士で評価し合える雰囲気をつくる。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽や鑑賞において遅れている生徒には昼休みや放課後に補習を行う。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

美 術

<p>課題分析 指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の少ない中で、より充実した表現活動ができるよう工夫された題材が必要である。 ・作業を楽しんで取り組む生徒は多いが、先の見通しが立てられず、時間内に課題が終わらない生徒も少なくない。 ・作業時間の確保のため、課題説明や用具の取扱説明など、できる限り少ない時間で効率よくできるように内容の精選が必要である。 	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間で様々な課題に取り組めるよう、ジャンルに偏りのない題材設定をするよう心がける。 ・計画的に制作に取り組めるよう、授業の中で提出期限を繰り返し伝える。 ・作品完成に向けて、作業内容の段階別に生徒の進行状況を把握し、遅れている生徒には個々に指導していく。 ・課題説明はできる限り精選し、作業時間を確保する。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その時間までに仕上げさせたい作業内容、作業目的について、授業の初めに伝える。 ・机間巡視しながら、個々の課題にたいして一人一人アドバイスしていく。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の進行状況を確認し、個々の生徒が計画的に作品完成に向かうよう促す。 ・制作の目的や目標をもう一度確認し、ただ作品を完成させるのではなく、より完成度の高い作品に仕上げられるようモチベーションを上げていく。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の作品については、作業がおくれている生徒には、居残り作業等をおこなうなどし、作品の完成にむけて取り組ませる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

保 健 体 育

<p>課題分析</p> <p>指導方法の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更衣や授業準備に時間がかかり、指示が出ないと動かない生徒がいる。 ・集団行動や準備体操への意識がやや低い。 ・授業の指示の徹底が甘く、苦手分野における課題克服意識を持ってない生徒がいる。 ・興味のない単元や苦手意識のある単元について主体的な参加が見られない生徒がいる。 	
<p>授業改善策</p> <p>具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育係を中心に、始業と同時に準備体操を開始することを徹底する。 ・集団行動や準備運動のねらいを明確にし、体育係を中心に自主的に行えるようにする。 ・グループ学習を通して学びあいの機会を図る。 ・個に応じて目標を設定し、運動技能の向上を図ることで達成感や喜びを味わうことのできる指導を行う。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・競技の特性を踏まえた上で、毎時の補強運動を継続的に行い、筋力や体力の向上を目指す。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わいながらも、多様な練習内容を取り入れ、より高い技術の習得を目指す。 ・運動の特性を理解させ、それに必要な技能や体力の向上を目指すとともに、ルール等の知識についても学ばせる。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選択授業において、より自主的に運動に親しむ姿勢を育てる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

技術・家庭

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>少ない授業数の中で、一時間ずつを大切に、課題や実技に取り組ませることが最大の課題である。また、生活体験の少なさから実技を行う際に道具や用具をうまく使えなかったり見通しを持って作業することができない生徒も少なくない。一つずつ示して指導していくことが大切であると思われる。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に本時の課題を明確に生徒に説明して、目標を持って授業に取り組ませる。 ・作品づくりについては、完成品を見せたりして完成までのイメージがわき、どのような行程を経て仕上げるかがわかるようにする。 ・作業で用いる道具等の使い方の説明をていねいに行う。 ・生徒どうしでの教え合いも大切にする。 	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の進行状況も調べ、作業の早い生徒に次の課題を与えたり、生徒相互の学び合いをおこなわせたりする。また、作業の進度が遅い生徒についても把握しつつ補えるところは授業で補う。
	<p>単元の途中 や単元末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要ポイントの小テストでは、合格点をもうけ合格しなかった生徒については合格するまで再度チャレンジさせる。 ・作品が完成したら、作業の様子や作品について振り返らせる。 ・作業中に工具等の使用法について振り返らせて、工夫したことを発表させる。
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の作品については、作業が遅れている生徒には、居残り作業等をおこなったりして作品の完成にむけて取り組ませる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（様式3）

英 語

<p>課題分析 指導方法の</p>	<p>実践的コミュニケーション力を付けることを目標にして毎時間の指導を行う必要がある。また言語の知識・理解力をつけるだけに留まらず、実際の場面における言語運用力の定着を目指した指導が大切である。</p>	
<p>授業改善策 具体的な</p>	<p>わかりやすく、丁寧な指導を心掛ける。言語の知識・理解力を実践的コミュニケーション力に結びつけるために、四技能を結びつける学習活動をする。ペアワークを多く取り入れるなどして、授業中に実際に英語を使う場面を多く作る。「書く活動」を継続的に取り入れ、表現力をつける。</p>	
<p>補充的・発展的な学習指導計画</p>	<p>一単位時間内</p>	<p>学力向上支援講師と連携を図り授業の中で個別支援をする。課題を基礎・基本と発展に分け、取り組ませる。</p>
	<p>単元途中 や単元末</p>	<p>小テストをこまめに行い、定着を図る。 ワークシートや補助教材を活用し、単元のまとめを行い、理解を確かめるとともに応用力をつける。</p>
	<p>学力補充教室等 (放課後・休業日)</p>	<p>選択授業において補充・発展的内容を行う。(3年) 定期試験の前に質問教室を実施する。 夏季休業中に補充教室を開く。</p>